

■ 令和4年度 第11回 秋葉区自治協議会

日時：令和5年2月24日（金）午後1時00分

会場：新津地域交流センター3階多目的ホール

1 開会

（金子会長）

皆さん、こんにちは。今年度の第11回秋葉区自治協議会でございます。本日は、中原市長からお越しいただいております。市長、秋葉区にお帰りなさいませ。ようこそいらっしやいました。

今日は、開会と閉会のあいさつは第3部会の方からすることになっておりまして、花水さん、大当たりでしたね。では、花水委員、開会のあいさつをお願いします。

（花水委員）

皆さん、こんにちは。第3部会の花水です。

市長のいらっしやる日に当たってしまいまして、ラッキーということでもよろしかったでしょうか。

私事なのですが、ちょうど2000年に秋葉区に居を構えまして、8月で丸23年になります。昨年度に外壁のリフォームを検討しまして、いろいろ検討したのですが、業者は田上の方に決めたのです。そこから家の中も少し改装したいなということもありまして、私は荻川なのですが、田上の人に頼んだら、何と来てくださった大工さんが秋葉区の荻川地区の方で、内窓を付けてもらうということになったときに、またその業者が同じく秋葉区の方だったのです。天井が高いもので、電球の交換が大変なものですから、この際だから電気屋さんに頼んでLEDに替えようということで替えてもらうのをお願いした業者が秋葉区の方だったのです。最初の依頼は田上の方だったのですが、どんどん秋葉区の方が、本当に顔見知りの方もいらっしやいまして、つくづくこの縁を感じました。やはり秋葉区にいてよかったなど、改めて思った次第です。

今日も一日よろしくをお願いします。

（金子会長）

花水さん、素晴らしいです。電球の交換からこんなにも秋葉区らしいエピソードを盛り込んで、素晴らしいごあいさつをいただきました。ありがとうございます。

報道なのですが、今のところ、まだどなたもお見えになっていなくて、通例ですとFMにいつ、新潟日報がいらっしやるのですけれども、もしかしたら後ほどいらっ

しゃるのかもしれませんが、そのときにお話ししたいと思います。

それでは、これから議題に入っていきますけれども、その前に、本日、新津中央コミュニティ協議会の本拠地である新津地域交流センターにお邪魔しております。それでは、新津中央コミュニティ協議会の中村会長からごあいさつをいただきたいと思いますが、中村会長、よろしくお願いします。

(新津中央コミュニティ協議会：中村会長)

皆さん、こんにちは。今、ご紹介いただきましたが、新津中央コミュニティ協議会の会長並びに当新津地域交流センターの管理運営委員会の会長も兼職しております、中村信也と申します。本日、よろしくお願いいたします。

本日は、新潟市長の中原八一様、秋葉区長の長崎忍様、それから自治協議会の皆様をお迎えして、第11回秋葉区自治協議会が開催されます。その開催の会場として当館をご利用いただきまして、誠にありがとうございます。大変光栄でございます。当館が開設になりましてから、今年、年が変わりましたので13年目になるところでございます。少し長くなりまして、時々故障などをする場合もございますが、かろうじて管理運営委員会で管理しながら頑張ってきてまいりました。そのようなわけで、皆さんはタイミングよく、最初は私どもの主催であったのですが、昨年から秋葉区自治協議会主催で、ただいま下のイベントホールでつるし雛を展示しております。ご覧になったと思いますが、年々盛大になりまして、今年度は55団体、79基のつるし雛が集まりまして、なかなか見応えがあるところにタイミングよくおいでいただきました。大変ありがとうございます。

それから、長くなっても困りますので、大体この辺にしておき、いずれにしても、この会が今後スムーズに進行いたしますようにお祈りいたしますし、また、本日参会の皆様のご健勝と活躍を祈念いたしまして、簡単ではございますが、当館のご利用に対するごあいさつに代えさせていただきます。大変ありがとうございます。

(金子会長)

中村会長、本当に温かい歓迎のごあいさつをありがとうございました。

本当につるし雛は、年々面積が広がっているようですね。今年などはかなりたくさん広がりまして、豪華な感じがいたします。各会場、まだまだ3月4日まででしょうか、開かれていますので、皆さん、ぜひ足をお運びください。

2 議事

(1) 市長との懇談会

(金子会長)

それでは、議題に入ります。本日、市長がお見えになっていますので、次第1番として「市長との懇談会」ということになっています。令和5年度当初予算案についてご説明いただき、その後質疑応答の時間を設けておりますので、皆さん、活発なご議論をお願いしたいと思います。なお、市長は概ね1時間のご出席と伺っております。時間厳守で進めてまいりたいと思いますので、ご協力のほどお願いいたします。

ちなみに、後でまたご説明しますが、今日は非常に盛沢山となっております。この本会議の後に研修というものを入れています。その後に部会、そしてさらには夜の予定と続きますので、皆さん、体力をセーブしつつ、時々英知を見ながら進めてまいりたいと思いますので、最後までお付き合いをよろしくお願いいたします。

それでは、市長、よろしくお願いいたします。

(中原市長)

皆さん、こんにちは。中原でございます。今冬は寒波が二度襲来するなど、大変寒い日が続いておりますが、皆さんの生活も大変だと思います。本日は大変お忙しいところ、秋葉区自治協議会と新潟市の意見交換会ということで、お忙しいところお集まりいただきまして大変ありがとうございます。今日、私から来年度の当初予算につきまして、簡単に説明をさせていただきたいと思います。

はじめにということではありますが、令和5年度は、新潟市にとって新しい総合計画がスタートする節目の年であります。新型コロナウイルス感染症法の位置づけもこれまでの2類から5類に引き下げられるということから、より一層社会経済活動の回復に向け、ウイズコロナのまちづくりを本格的に進める大きな転換点になると考えております。さらに、皆様方のご支援のおかげで、私も市政2期目のスタートを切らせていただきました。昨年10月の選挙戦を通じまして、改めて多くの市民の皆様の声をお聞きすることができました。その中で新潟の活力向上、暮らしのさらなる充実を多くの方々が強く望んでいることを実感した次第であります。このたびの新年度予算案は、昨年、私の公約として約束したことをはじめ、市民の皆様が期待する新潟市政を1つ1つ形にしていかなければならないとの強い決意のもとで編成した次第であります。さらに、新潟市の最重要課題である人口減少への対応も欠かせません。これからの新潟の10年先、20年先を見据えたまちづくりによって、市民の皆様と一緒に明るい未来を切り拓いてまいりたいと考えております。

2ページをご覧くださいませ。令和5年度当初予算編成にあたりまして、ご覧のような3点を柱とさせていただきます。1点目は「活力あふれる新潟へ」です。活力あ

ふれるまちにしていくために、都市機能の充実と拠点性の向上を図り、市内全域の産業の活性化につなげていくことが重要です。これまでの「にいがた2キロ」の取り組みにより民間開発の動きが出始め、それと連動するように企業の進出もこれまでになく活発化してきております。引き続き「にいがた2キロ」を新潟の活力向上の成長エンジンとしていきたいと思っております。そして、そこで生み出されたエネルギーを市内全域に波及させてまいります。都市部と田園地域が相互の存在と価値を認め合うことが大事で、そのことで本市がもつ都市と田園が調和し、暮らしやすいというポテンシャルがさらに発揮されると考えています。

2点目は、「子どもと子育てにやさしい新潟へ」です。子育て支援は、未来を見据えたとき新潟の活力を左右する重要な取り組みであるということは言うまでもありません。私は、4年前の市長就任以降、集中改革の効果を活用しながら子育て施策の充実を図ってまいりました。また、昨年の上市長選挙においても、子育て世代の皆様から、まだまだ経済的、精神的負担が大きいということをお聞きし、より一層の子育て支援の必要性を痛感したところです。子育てというかけがえのない経験の中で、その楽しさや幸せを感じていただくということが非常に大切なことではないでしょうか。そのため、子どもをもちたいと考える人たちにとって、心身共に安心して妊娠・出産・産後を過ごせる環境を整えてまいります。そしてこの新潟市をすべての子どもが豊かな子ども期を過ごし、子どもたちの育ちを地域全体で支えていくまちにしていきたいと心より願っております。

3点目は、「活力と魅力あふれる区づくりに向けた取組の強化」です。市内どの地域においても、市民の皆様は、自分の住む地域をもっと暮らしやすく、もっと豊かにしていきたいという思いをお持ちです。現在、本庁と8つの区役所があり、大きな区役所、小さな市役所ということを目指し、各区役所では、特色を活かしたまちづくりや、また身近な地域課題の解決に向けて取り組んでまいりました。一方で区民の皆様から区役所にさまざまなご要望が寄せられてきておりますが、そうしたことに十分に答えきれていなかったというのも現実のことかと思っております。そこで、区民の皆様のを今一度しっかり受け止められるよう、区の権限、財源を大幅に強化するとともに、予算編成のプロセスの大幅な転換を図り、区長からの提案を積極的に予算化できるように見直しました。さらに、新年度は新たに公民連携のワンストップ窓口を設置いたします。地域の活力を向上させることやまちづくりは、行政だけでは到底実現することはできません。本来もっております特色やポテンシャルを活かした民間投資との連携を図り、今まで以上に民間の皆様と行政が力を合わせていけるプロジェクトなどをつくりだすことによって、地域に活力を生み出し、区民の皆さんから喜んでいただけるような対応をしていきたいと

考えております。

これらの考えにより編成した新年度予算に市民や事業者の皆様と一緒に取り組むことで、都市の活力向上と住民福祉の向上の好循環ということを生み出し、8つのカラーで成長し続ける選ばれる都市新潟市を実現してまいります。

それでは、3ページをご覧ください。新たな総合計画に基づく新しいまちづくりがスタートいたしますので、総合計画の概要について若干説明させていただきます。この「新潟市総合計画 2030」は、2023年から2030年までの8年間の計画であり、新潟市のまちづくりの方向性を示す最上位の計画であります。この計画の策定にあたっては、各区の自治協議会の皆様から大変ご協力をいただきました。誠にありがとうございました。自治協議会の皆様をはじめ広く市民の皆様の声を反映させるため、アンケートやワークショップ、審議会などを実施しながら昨年度から策定作業を進めてまいりまして、昨年12月の議会で基本的な構想と計画部分について議決をいただきました。また、審議会には、各区の自治協議会から1名ずつ委員に就任いただき、貴重なご意見をいただいたところであります。

4ページです。本市のまちづくりの考え方や方向性を示すまちづくりの理念は、「みんなで新潟市の強みを活かし、人口減少時代に躍進する活力あふれるまちづくり、持続可能なまちづくりを進めます」としました。

5ページです。目指す都市像には、将来に渡って新潟ならではの心豊かな暮らしができるまちを実現したいという思いから「田園の恵みを感じながら、心豊かに暮らせる日本海拠点都市」を掲げました。

6ページです。計画の進捗管理を行うため、3層構造の成果指標を設定し、最上位の指標となる成果指標には、目指す都市像や新潟市の最重要課題であります人口減少への対応を踏まえ、社会動態、合計特殊出生率などの四つの指標を設定しました。

7ページです。目指す都市像の実現に向けて、分野横断的かつ重点的に推進する施策を、1都市機能の充実と拠点性の向上から、10安心・安全で災害に強いまちづくりまで、10の重点戦略としてまとめました。これらの重点戦略を推進することで都市機能の充実と拠点性の向上を図り、市内全域の産業の活性化につなげてまいります。そして、そこから生み出される活力と財源を活用し、子育て支援など住民福祉のさらなる向上を図る好循環を創出していくことが大事であると思います。

8ページです。本市の最重要課題である人口減少への対応について、人口減少の要因は複雑に絡み合っており、左側の人口減少を和らげるイメージ図にありますように、青丸に「合計特殊出生率の向上」と書いてあります。それから、赤丸には「社会動態の転

出超過の解消」と記載しておりますが、見にくいかと思いますが、こうしたことは、一つの施策によって状況が大きく改善するというものではありません。先ほど説明しました重点戦略を中心に、あらゆる施策の総動員により対応してまいります。

9 ページです。新潟市の持続的な発展に欠かせない区におけるまちづくりについてです。市内8区には、以前から申し上げておりますように、歴史や文化、産業といったさまざまな特色、また魅力が増えています。その特色と魅力が新潟市として1つになることで、都市と田園の調和による暮らしやすさなど、新潟のもつ強みを生み出しています。そのため、これまで以上に区の特色を前面に押し出しながら、個性あふれる区づくりを進めます。そして各区の活力向上を図り、8つのカラーで成長し続ける新潟市を実現してまいります。

以上、総合計画の概要について説明をさせていただきました。

次に、新年度当初予算について説明をします。11 ページです。新年度一般会計当初予算案は、過去最大の総額 3,977 億円、前年度比 1.4 パーセント増となります。

力点の1つ目、「活力あふれる新潟へ」では、「にいがた2キロ」に関連する事業費は前年度から5億円を増額し、都心エリアのまちづくりを力強く推進していきます。次に2つ目、「子どもと子育てにやさしい新潟へ」では、妊娠・出産・子育て3施策の拡充を図り、併せて3億円を増額しました。続いて3つ目、「活力と魅力あふれる区づくりに向けた取組の強化」では、区長提案による各区の課題解決の加速化を図り、新たに5億1,000万円の各種事業を計上したほか、西蒲区におきましては、区役所の新庁舎整備にも着手します。また、一番下のその他に記載したとおり、建設事業は約390億円を計上し、新潟駅直下バスターミナルの供用開始に向けた駅周辺整備事業などに取り組むほか、学校の特別教室の空調整備などを推進していきたいと考えております。

12 ページです。当初予算案の概要についてです。一般会計と特別会計、企業会計それぞれの規模は、一般会計が3,977億円、特別会計が2,539億円、企業会計が1,311億円となり、全会計の合計は89億円増の7,827億円で、前年度比1.2パーセント増となります。次に、借金であります市債残高については、臨時財政対策債を除く令和5年度末見込みで約3,656億円となり、前年度比約48億円減少する見込みです。基金残高については、令和3年度末で約107億円でしたが、この冬の除雪の財源として取り崩さざるを得なくなりましたので、今年度末残高は95億円余を見込んでおります。新年度予算ではこの残高を維持確保し、基金活用に頼らない6年連続の収支均衡予算を達成します。さらに社会情勢の変化に対応した財政基盤の強化に向けた不断の見直しとして、職員数の適正化、事業の見直しも進めてまいります。

13 ページです。ここからは、三つの力点ごとに具体的な新規、拡充の取り組みについてご説明します。

まず、「活力あふれる新潟へ」です。これまで、まちづくりの大きな転換期ということから、都市再生緊急整備地域の指定や「にいがた2キロ」の覚醒という方向性、これを公表し、都市機能の充実に向け、都心エリアの活性化策を積極的に展開してきております。また、5月にはG7新潟財務大臣・中央銀行総裁会議が開催され、新潟に世界から注目が集まります。この大きなチャンスを逃すことのないように、魅力を日本中、世界中にアピールしてまいります。

14 ページです。企業誘致につきましては、「にいがた2キロ」を中心とした現在のよい流れをさらに加速させていきます。進出を考えている企業から新潟市の優れたビジネス環境を試していただく取り組みを新たに実施いたします。また、企業の本社機能のさらなる誘致については、支援を政令市トップクラスにまで拡充いたします。都市機能の充実と魅力向上に向け、ハード面では引き続き新潟駅周辺整備事業を着実に進めます。また、旧三越周辺の再開発や、仮称バスタ新潟の調査や設計に関する予算を計上しました。ソフト面では、「にいがた2キロ」と8区の魅力を高め発信する取り組みを支援します。また、古町花街の歴史的な街並みの保存に向け、民間事業者の皆様と協力しながら進めてまいります。さらに賑わいの創出に向け、まちなかを緑で彩る取り組みや、東大通の車道の一部を歩行者のための空間とする社会実験、また今年度初めて開催した「にいがた2キロ食花マルシェ」などをバージョンアップして開催いたします。

15 ページです。成長産業の育成を強化するため、デジタル社会や脱炭素社会を見据え、DXやGXなどの新たな技術を活用したビジネスの展開を一層支援し、企業の稼ぐ力を高めていきます。農業においては、若者から選ばれるという観点も重視し、儲かる農業を目指し、新たに親元で就農する農業者をはじめ新規就農者を支援します。また、官民連携による販路拡大に取り組みます。

16 ページです。働き方や暮らし方の変化というチャンスを活かしまして、移住・定住の一層の促進に取り組みます。新たな地域おこし協力隊を活用し、テレワーカーのコミュニティ構築や情報発信など、移住者を呼び込む仕掛けをつくっていきます。また、市外の副業人材などと市内の企業をマッチングすることで、企業の課題解決や本市との関係人口を創出する取り組みを開始します。交流人口の拡大につきましては、先ほど申し上げましたG7を通じ、本市の優れた拠点性やおもてなしをアピールします。また、世界遺産登録を目指す佐渡市などと連携しまして、誘客活動を展開します。加えて新潟駅が徐々に新しくなっておりますけれども、その駅に相応しい観光案内センターを整

備いたします。また、県が中心となり官民で進めている新潟空港将来ビジョンというものがありますが、空港周辺道路の調査や検討を進めてまいります。

17 ページです。「子どもと子育てにやさしい新潟へ」です。私の市長就任以降から子ども医療費助成の対象を2度拡充したほか、病児・病後児保育施設を8区で展開するなどを進め、一定の成果が出てきております。しかしながら国や県からも新たな取り組みが示されているなど、まだ子育て世帯の経済的・精神的負担は大きく、重点的に取り組んでいく必要があると考えています。

18 ページです。こうした考え方のもとで、妊娠・出産期の経済的・精神的負担の軽減に向け、妊産婦医療費助成の所得制限を撤廃します。また、産後ケアの助成を政令市トップ水準まで拡充し医療料金を引き下げます。さらに保育料について多くの方からご要望をいただいております、高校3年生までの子どもを軽減対象に含め拡充を行い、妊娠・出産・子育て3施策を充実いたします。

19 ページです。すべての子どもが豊かな子ども期を過ごせるよう、子ども条例に基づいて子どもの権利擁護や社会参加などを促進します。また、ヤングケアラー・コーディネーターを新たに配置するほか、障がいがあるなど配慮が必要な子どもたちへの切れ目ない教育支援体制づくりを進めます。そのほかにもICTを活用し、見守り支援や事故防止対策など、子どもたちの安心・安全対策を強化します。

20 ページです。地域との連携により開かれた学びを推進するため、コミュニティ・スクールの充実や部活動の地域移行への準備を進めます。また、子どもたちが地域の文化・歴史を体験する機会を設け、ツアー形式のプログラムを新たに実施します。併せて社会全体で子育てを応援する新潟市を推進し、民間事業者の皆様との連携をさらに進めていきます。

21 ページです。活力と魅力あふれる区づくりに向けた取組です。次の三つの見直しを行い、区の予算と権限を拡大します。1点目の各区の課題解決では、区民の皆様の要望を踏まえた区長からの提案を積極的に予算化できるよう、予算編成プロセスの転換を図り、住民起点でのよりよい地域づくりをさらに推進します。新年度に各区で取り組む8区の主な事業につきましては、記載のとおりです。さらに地域の多様な主体とのパートナーシップにより区のまちづくりを深化させていくため、区長からの提案をもとに関係部で予算化いたしました。記載の二つの新たな事業によって各区の取り組みを後押ししていきます。22 ページです。2点目の8区の特徴を活かしたまちづくりでは、区づくり予算の実質的増額を図り、各区独自の取り組みによる区づくりをさらに進めていきます。3点目の修繕要望については、各区の緊急対応予算を1.5倍に増額し、より多くの要望

に伝えられるようにしていきたいと思えます。こうしたことにより、区役所が区民の皆様の声に寄り添い、迅速かつ柔軟に対応することができるよう、今後も取り組んでいきます。

23 ページから 30 ページまでは、それぞれ区の新規・拡充事業を掲載しております。ここからは、区長から説明をしてもらいます。

(長崎区長)

それでは 27 ページについて、私から秋葉区の新年度の取り組みをご紹介させていただきます。

まず一番上、新規事業になりますが、「秋葉丘陵遊歩道案内サイン整備」では、秋葉丘陵にあります「木もれ陽の遊歩道」の案内サインについて、老朽化したサインのデザインの統一及び更新、並びに新設によって、利用者の安全確保と利便性向上を図ります。主に木製でできたもので朽ちたものや、道が二股に分かれて危険なところを回避するために整備をいたします。

続きましてその下、新規事業になりますが「廃止石油坑井封鎖」では、小口地区の未封鎖の廃止石油坑井から湧出する石油の河川への流出防止に向けて、対象となる石油坑井を封鎖するため、周辺地域の測量や工事の施工方法などを検討するために必要な事前調査を実施します。加えて工事に必要となる仮設道路の敷設や、油と水を分離する装置の設置なども行う予定です。

その下、「アキハ『鉄道物語』」では、引き続き新津駅東口の観光案内所「あ！キハ」を運営し、来訪者の区内への回遊を促進します。また、区民や商店街などと連携を図りながら、鉄道に関連した、例えば「鉄ぶら散歩」などのような取り組みを実施し、まちなかの活性化と交流人口の拡大につなげていきます。拡充部分は 2 ポツ目、鉄道事業者との観光・交流促進を目的とした共催イベント、マッチングトレインをこの 12 月に実施する予定ですが、出会いと、さらには交流の機会の創出を目指して取り組みます。

その下、「アキハスムプロジェクト Vol. 3」では、拡充部分として、1 ポツ目、民間のコワーキングスペース、中央公園の近くを考えておりますが、そちらに移住コンシェルジュを設置しまして、移住相談窓口を開設して、移住・定住のための仕組みづくりを地域活動団体と協働して取り組みます。なお、夏ごろのオープンを予定しております。また、引き続き住民主体の地域活性化を推進するため、秋葉区の特長、魅力をブランド化し発信することによるシビックプライドの醸成を図りますし、「Akiha 女子」など市民活動に取り組む新たな人材の発掘、育成、活用を進めます。

最後に、区自治協議会提案事業の新規分「地域コミュニティ協議会の未来ビジョン策

定支援」では、小中学校のコミュニティ単位による持続可能な地域づくりをめざして、皆様自治協議会が主体となって行われます区内に 11 あるコミュニティ協議会及び私も区と連携して、5年後、10年後の地域のビジョン策定を進めます。未来ビジョン策定にあたりましては、自治協議会と区が協力、支援をして、地域のさまざまな世代が参加できる勉強会やワークショップを開催したいと考えております。

以上、簡単ではありますが、秋葉区の新年度の取り組みを説明させていただきました。
(中原市長)

それでは、もう少し説明させていただきます。31 ページです。ここからは、主な新規・拡充事業、総合計画の 10 の重点戦略の推進に基づいて掲載しております。戦略ごとに整理して掲載しておりますので、後ほどご覧いただければと思います。

飛びまして 45 ページです。物価高騰と新型コロナウイルス感染症への対応についてです。まず、物価高騰に対し、今年度も厳しい経済状況にある皆様に支援してきました。加えて新年度は、物価高騰により困窮する子育て家庭に対してこども食堂や子どもの学習・生活支援事業での食事提供などをおして支援していきたいと思っております。また、生活困窮者を支援する団体への補助の拡大、中小企業への融資における対象者の要件緩和などを実施します。これらの取り組みに加え、今後も国や県と連携しながら、適時適切な対策に努めてまいります。

次に、感染拡大から約3年が経過する新型コロナウイルス感染症への対応については、5類への移行を踏まえ、引き続き感染拡大防止対策と医療提供体制の整備に努めながら、あらゆる場面で平穏な日常を取り戻せるよう、着実に歩みを進めてまいります。

次に、都心のまちづくり「にいがた2キロ」の覚醒の取り組みについてです。49 ページです。これまで「にいがた2キロ」につきましては、この方向性を定めた覚醒の中で掲げました三つの基本方針に沿ってまちづくりを進めてきております。基本方針1では、新潟駅南口西地区の事業をはじめとした都心部の再開発を促進するとともに、先ほどから申し上げております戦略的な企業誘致を推進してきております。例えば昨年度の企業誘致件数が8社のところ、今年度は1月末時点で14社、徐々に成果も現れてきております。来年度も支援制度のさらなる充実を図りながら、戦略的な企業誘致を推進してまいります。併せてDXプラットフォームの取り組みや、XRを活用した新たなビジネスを創出するためのプロジェクトを推進することで、稼げる都心づくりをより一層加速させていきたいと考えております。

50 ページです。基本方針2では、8区と連携したVR産直市場をオープンするなど、「にいがた2キロ×8区連携」を促進する取り組みを始めました。また、「にいがた2

キロ食花マルシェ」を初めて開催し、食と花の魅力を内外に向けて発信したところです。

51 ページです。基本方針では、将来的な人中心の空間づくりに向け、東大通の車道の一部を活用した社会実験を行いました。また、「にいがた2キロフラワーフェスタ」を開催し、多くの方々からご参加いただいたところです。さらに回遊性の向上を図るため、シェアサイクルの運用を開始いたしました。スタートした9月から11月の3か月で約1万4,000回の利用があり、順調なスタートとなりました。

続いて52 ページです。先ほども冒頭に若干触れさせていただいたのですが、新年度新たに設置する公民連携のワンストップ窓口「公民パートナーシップデスク for Niigata」です。53 ページをお開きください。このパートナーシップデスクは、人口減少時代にあっても新潟市が日本海拠点都市として躍進していくため、民間事業者などさまざまな皆様から提案や相談などをワンストップで受け付ける窓口であります。業務としては、提案・相談への対応のほか、事業化に向けたサポートも行います。こうして民間事業者の皆様と一緒に公民連携を推進し、活力あふれるパートナーシップ型のまちづくりを進めていければと考えております。

54 ページです。これまで市が行ってきたことは、左側の点線の四角囲みにありますとおり、市が捉えている課題を公表し、その解決に向けた提案を募集してまいりました。しかし新年度からは、赤枠の民間活力を区や市の活力につなげる提案についても、このワンストップ窓口にご提案いただきたいと考えております。右側に赤字で記載していますが、地域のポテンシャルに着目して民間の方々が投資をしようという場合、区や市の活力向上にも寄与されると市が判断されるときに、多様な地域資源との連携、情報発信、規制緩和を新潟市として考えていきたいと思っております。ご提案いただいた内容によっては、副市長をトップとする検討推進体制の設置によって新潟市として強力的にサポートさせていただきたいと考えております。まさにこれからの時代は、都市の総力を挙げた公民連携のアイデアの勝負の時代であると思っております。自治協議会の皆様におかれても、ぜひさまざまな提案をお願いしたいと思っておりますし、またこうした窓口ができたということ、広く市民の皆様にも周知していただければ幸いです。

以上、来年度の当初予算案の概要につきまして説明をさせていただきました。引き続き市民の皆様が笑顔で希望をもって暮らすことのできる新潟市をつくってまいりたいと思っておりますので、引き続きのご理解とご協力をお願い申し上げます。以上で説明とさせていただきます。ありがとうございました。

(金子会長)

中原市長、ありがとうございました。

では、さっそく皆様からのご意見、ご質問等をいただいてまいりたいと思いますが、時間が大変限られておりますので、ご発言は簡潔に、なるべく多くの方に発言いただけるようご協力をお願いいたします。何か発言のある方は、挙手でお願いします。

(蓮沼委員)

西部コミュニティ協議会会長の蓮沼です。

説明、大変ありがとうございました。盛沢山な事業と予算ということで、非常に期待のもてる計画なのではないかと思っています。

私から、質問というよりお願いなのですが、8ページに「公共交通の維持」というのが書いてあるのですけれども、秋葉区はおかげさまで鉄道関係も列車本数も多く、非常に住みやすいまちになっています。ただ、公共交通の空白地帯をどう救っていくかということが非常に課題になっていまして、北区でやっているエリアバス×タクを導入できないのかと検討していきたいと思っています。今、社会福祉協議会、それから地域のコミュニティ協議会、民生委員、町内会長とともに地域にある四つの社会福祉施設と一緒に買い物支援事業を進めていて、この3月に、高齢者の一人暮らし、二人暮らしで買い物に行きたいけれども行けない人を支えていこうという事業を始めようとしています。ぜひその利用者が多くなれば、エリアバス×タクなどの予算化も検討していただければと思います。よろしくお願いします。

(中原市長)

どうもありがとうございました。まず、買い物支援など、自治協議会の皆様にご尽力いただいて、そうした高齢者の皆様に支援していただいているということで、新潟市としては、本当にありがたい取り組みだと考えております。どうもありがとうございます。

これからも新潟市としては、そうした支援ができる地域を増やしていくことができればと思っていますし、新潟市として、今話がありましたエリアバス×タクというものを新潟市の北区で始めさせていただいております。これは、公共交通が少ない地域において、利用者が少ないために採算が合わないところを、タクシーと中型バス、マイクロバスなどをつないで、住民の皆さん、また北区におきましては学校の子どもたちを冬場に乘せて運んでいるということで、利用率も43パーセントくらいということで、まずまずの成果を収めております。この北区のエリアバス×タクは、状況を見ながら他の区にもこれを展開できないかと考えておりますので、引き続き皆さんと情報のやり取りや、課題などをしっかりと共有させていただきながら、私どもも他の区への展開ということも考えていきたいと思っていますので、どうぞよろしくお願いいたします。

(蓮沼委員)

ありがとうございました。

(青木委員)

今日のご苦勞さまでございます。金津コミュニティ協議会の青木と申します。

市長におかれましては、非常にお忙しいところおいでいただきまして、ありがとうございます。

せっかくの機会でございますので、私から1点お願いがございます。お金に関する事で、市内99のコミュニティ協議会に関する事で、なかなか難しいかと思うのですが、要はコミュニティ振興協議会、コミュニティ協議会の事務職員の給料を上げていただきたい。そのために、指定管理料の増額をお願いできないかということでございます。と言いますのは、地域の活性化、これは役員一部の力ではどうにもできません。事務職員の住民の感覚、卓越した事務処理能力と一体になって地域の活性化をやっているわけでございます。これからも、こういう事務職員の勤務意欲のさらなる向上、地域の活性化をするために、少しでも何とか給料を上げていただきたい、指定管理料の増額をお願いできないかと、こういうお願いでございます。

(中原市長)

ありがとうございました。私の実態を正確に把握しておりませんので、大変恐縮ですが、区長から答弁をさせていただきます。

(長崎区長)

青木会長、ありがとうございます。以前、金津コミセンにお邪魔したときに、同様のご提案をいただいております。指定管理料の増ということなのですが、管理をする施設の利用実態、さらにはそこで行われている取り組みなども検証させていただいて、それに見合う増額が必要かどうか、一旦検討させていただきたいと思っておりますので、その際は打ち合わせをさせていただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。コミュニティ協議会が一生懸命いろいろな取り組みを地域交えて行っていることはよく存じておりますので、また引き続き取り組みが深化するように、こちらも検討させていただきたいと思っております。よろしく願いいたします。

(青木委員)

ありがとうございます。よろしく願いいたします。

(金子会長)

ありがとうございます。次に佐々木委員からご発言をいただきますけれども、シナリオに「13時50分終了厳守」と書いてあります。そのようなことはあるかと思うのです。

が、市長、実は次の会合があるということなので、守らなければいけなくて申し訳ありません。また次の機会に期待しております。最後ということでお願いします。

(佐々木委員)

お時間のない中申し訳ありません。特定非営利活動法人ディンプルアイランドの佐々木と申します。放課後児童クラブを運営しております。常日頃健全育成活動にご尽力いただき、また支援をいただきまして、ありがとうございます。

今ほどのご説明、ありがとうございました。19 ページに新潟市子ども条例に基づく施策の推進という欄があるのですが、さまざまな問題点に子どもの意見を取り入れていくというようなお話があったかと思ったのですが、社会参加を促進ということで、これから子どもたちの意見はどのように取り入れていかれるのかということと、それから少子化を防ぐための対策として、子育て支援のために医療費ですとか、それからよくニュースで言われている給食費の削減というものを、新潟市はどのように考えているのかということをお聞かせいただければと思います。

(中原市長)

これから、子どもたちの社会参加、実はすでに一度実施したものがあまして、来年度からそれを拡充して実施していこうという取り組みを今考えております。それから給食費について、小規模の自治体においては、給食費について少し組みだした自治体が報道されているようですが、新潟市の場合は、小中学校でこの給食費を消化すると、正確な数字は忘れてしまったのですが、30 数億円ということで、新潟市の単独の力ではこの給食費の無償化は実現できないということをご理解いただきたいと思います。もう 1 点ありましたか。

(佐々木委員)

医療費です。

(中原市長)

子ども医療費につきましては、私が市長に就任したときに、中学 3 年生までであったものを、このコロナ禍の中で 2 回拡充しまして、小学校 6 年生から中学 3 年生まで、中学 3 年生から高校 3 年生までということで、6 学年分助成費を拡充いたしました。今、1 回子どもがクリニックなどにかかる、医療費につきましては 530 円、薬代については無料という状況になっております。

(佐々木委員)

ありがとうございました。

(金子会長)

市長、どうしてももう1人、発言したいという方がいらっしゃるのですが、よろしいでしょうか。超特急でお願いします。

(五十嵐委員)

ありがとうございます。五十嵐と申します。

今回、46 ページで、子どもの困窮者支援団体の活動の補助金や、こども食堂への助成金を予算に盛り込んでいただいたということで、私たちは画期的だと大変喜んでいるのですがけれども、もう1つ、秋葉区の中で廃止が予定されている市民会館やホールがあるのです。いくつかあるのですが、そこでサークル活動をしている高齢者や若い人がたくさんおられて、その施設を廃止して駐車場ではなく、建て替えや近いところにプレハブでもいいから代替施設を造ってほしいという要望、嘆願がたくさん寄せられています。区長と懇談をしていろいろ検討していただいている段階なのですが、今度、8区にも5億円の予算がついたということで、ぜひその辺の予算を少し使わせていただいて、区長を中心にそうした要望にも応えていただけると、本当に住民の生活の豊かさの向上ということが維持できるので、ぜひ一緒に要望を聞いていただければと思います。よろしくお願いします。

(中原市長)

ありがとうございました。そうした動きがあることは承知しておりますし、まず私からは総論になりますけれども、新潟市が広域合併をしたときに、本来であれば公共施設の再編ということを進めるべきではなかったかというご意見があるのも真理だと思いますが、平成の大合併では、合併をさせることを優先にして、公共施設の削減ということは後回しになったため、新潟市は現状としてたくさんの公共施設を抱えています。この公共施設を維持していくということが大変重荷になってきておまして、今、新潟市の財産推進計画に基づいて再編を進めさせていただくということにしております。この公共施設の再編にあたりましては、地元の皆さんの合意形成を図ることが大事だろうと思っておりますので、引き続き皆さんからご理解をいただけるように、地域のあり方を含めていねいに協議をさせていただきたいと思っております。

(長崎区長)

ご意見いただきありがとうございます。先週も相談したばかりの新津市民会館の件ですが、利用団体とは、今個別に利用施設についてのご提案について調整をさせていただいているところですし、今ほど市長からもお話がありましたとおり、新潟市内には同様の施設がたくさんある状況ですから、まずは特に新設した施設を含めて有効利用

をさせていただいたうえで、老朽化で耐震性がなくていつ壊れるか分からないような市民会館の状況でありますから、ご利用の方々の安全性を確保しながら、一刻も早く次の利用施設をご紹介させていただこうと思いますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

(金子会長)

ありがとうございました。それでは、大変限られた時間でごさいますして恐縮ですが、貴重な懇談の機会をもたせていただいたと思ひております。引き続き、ぜひ一つを見ずに図らせていただきながら、ともに連携して新潟のまちづくりを進めてまいりたいと思ひておりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

それでは、これをもちまして、市長と区自治協議会委員との懇談会を終了させていただきます。中原市長、ありがとうございました。

(中原市長)

皆さん、ありがとうございました。時間が少なくて申し訳ありませんでした。よろしくお願ひします。

(金子会長)

それでは、ここで少し休憩を挟みたいと思ひますので、5分ほどでいかがでしょうか。2時5分再開ということで、ご着席いただければと思ひます。

(2)「令和4年6月 教育委員会の事業説明」における主な意見等への回答について

(金子会長)

それでは、議事を再開させていただきます。

ただいま、FMにいつと新潟日報が入って来られましたので、いつもどおりですが、取材の協力依頼をいただひており、写真撮影・録画・録音を許可してよろしいかお諮りしたいと思ひます。いかがでしょうか。

(「異議なし」の声)

ありがとうございました。許可することにいたします。

では、次第の2番です。令和4年6月、教育委員会の事業説明がございました。皆さん、覚えていらっしゃるでしょうか。6月だから、半年以上前の話ですけども、そこで皆さんからさまざま出していたご意見への回答ということを、本日、牧野秋葉区教育支援センター所長からいただひることになりましたので、では、牧野所長、お願ひいたします。

(教育支援センター所長)

教育支援センターの牧野です。よろしくお願ひいたします。

資料2になります。6月に自治協議会の場で皆様からいただいたご意見、その場でもいくつか回答させていただいたのですが、その後の進捗も含めてご報告させていただきます。8区から出た質問をまとめたものですので、秋葉区で話題にならなかったものも載っておりますが、ご参考にご覧ください。

では、まず特別支援教育につきましては、先月の自治協議会で部活動の地域移行と併せて説明させていただいている内容と重なりますので割愛させていただきます。

5番、ヤングケアラーについてです。この1月に、新潟市立の小学校、中学校、高校の児童生徒を対象に、ヤングケアラーについてアンケート調査を行っております。それを受けまして、学校で子どもの支援をする、先ほど話にありましたヤングケアラー・コーディネーターにつなげるなど、関係機関との連携を強めていくということで、今取り組んでいるところです。

次のページをご覧ください。8番、9番、GIGAスクールについてです。GIGAスクールにつきましては、保護者についても情報提供が必要ではないかのご意見をいただいておりますが、この度、保護者向けの啓発ビデオを作成しました。新潟市教育委員会で「GIGA SUPPORT WEB」というホームページを運用しておりますので、そちらに保護者向け、子ども向け、地域向けというところで情報発信しておりますので、子どもたちや保護者に向けた動画もそこでご覧いただけますので、「GIGA SUPPORT WEB」と言います。ご覧になっていただければと思います。

次のページの10番、タブレットが重く、教科書もあってランドセルが重いという話題がありましたが、その後、今、デジタル教科書の導入が順調に進んでおりまして、まだ全教科にはなっておりませんが、サーバーの整備とかハードの面も整ってきまして、間もなく全教科でデジタル教科書が実現するのではないかとこのところ取り組んでいるところです。まだ全教科とはなっておりませんが、順調に進んでおりますことをご報告いたします。

11番、学校給食につきましては、給食費の集金の仕方について具体的な話が進んでおります。令和7年度には、給食費を学校で集金するのではなく、市の集金のラインに乗せるということで進んでおります。給食の提供の仕方についてはまだ検討段階で、平たく言うとまだ決まったことはないというところで、今後、動きがあったらお知らせさせていただきます。

最後、コミュニティ・スクールです。秋葉区でも自治協議会のご提案ですでに人材育成にかかわる研修会をさせていただいておりますが、新潟市教育委員会としても、令和5年度、コミュニティ・スクールに係る人材育成の研修を始めるということで書かれ

ております。

資料の中でアンダーラインのついているものが、特に6月にはまだ予定されていなかったものが、皆様のご意見を経て新たに取り組みが始まったものということでアンダーラインがついておりますので、細かいところはまたご覧いただければと思います。大きなところを話させていただきました。

(金子会長)

牧野所長、ありがとうございました。では、ただいまのご説明についてご意見、ご質問等がありましたら、挙手のうえご発言をお願いします。いかがでしょうか。

よろしいですか。きちんとこちらが提示した疑問に対する回答と、それから進捗がしっかり見られたなという感想でございますけれども、引き続きさまざまところで意見交換して、よりよい教育環境の整備に努めていただきたいと思います。ありがとうございました。

それでは、以上で次第の(2)を終わりにさせていただきます。

(3) 令和5年度当初予算事業について

(金子会長)

では、続いて次第の(3)番、令和5年度の秋葉区の当初予算事業について、古俣副区長から説明をいただきます。よろしくお願いします。

(古俣副区長)

いつも大変お世話になっております。副区長の古俣です。

私から、秋葉区の令和5年度の取り組みなどを説明いたします。区長の説明と少し重複する部分があるかもしれませんが、ご容赦ください。

お手元のA3の資料3-1をご覧ください。令和5年度の秋葉区の主な取り組みについてまとめております。こちらの資料には、合計で25本の事業を掲載しております。事業の説明の前に、右上の資料番号の下に凡例が書かれておりますが、こちらをご覧ください。各事業には、色分けした丸数字が頭についているのですが、赤は従来からある特色ある区づくり事業となっておりまして、総額につきましては、令和4年度と同じ2,900万円となっております。青は、令和4年度の特色ある区づくり事業とは別枠に予算化した事業となっております。防災・福祉・健康づくりの類の事業から、全市的な視点をもって取り組む必要があるものなどが該当します。移行した事業は8番から12番、左下に青丸の8番から12番がございますが、合計で715万6,000円となっております。令和4年度の区づくり予算の総額は2,900万円でしたけれども、8番から12番が別枠に移

行した後も変わらず、令和5年度は2,900万円ということです。また、緑色の丸ですけれども、地域から要望が寄せられていた施設の整備を、区長が提案したもの、あるいは今後長く事業が続くであろう石油井戸の封鎖といった主要事業を緑の丸で掲載しております。

それでは、事業の説明に入ります。はじめに、左上に水色の枠で囲まれている事業です。1番「秋葉区の花と緑にふれあい隊」です。こちらの事業では、新津川・秋葉公園でのクリーン作戦の実施や、国道403号の拡幅予定地をフラワーロードとして植栽整備するなど、区の特徴である花と緑に親しむ環境整備や保全活動を区民協働で行うことで「環境に配慮した潤いとやすらぎのあるまち」などの実現を推進します。2ポツ目の「大沢森林公園登山口駐車場整備」がございますが、現在30台分ある駐車場を50台程度に拡充してまいりたいと思います。

次に、2番「新津川遊歩道等利用促進」です。こちらの事業では、多くの方から散策やサイクリングでご利用いただいております。新津川、能代川の遊歩道にトイレを新設して利用環境を整備し、利用者の増加と健康づくりを推進します。

次に3番「秋葉丘陵遊歩道案内サイン整備」についてですけれども、こちらは先ほど区長の説明がございましたが、老朽化したサインのデザインを統一、サインの更新、それから分岐点が分かりづらい箇所への新設を行うなど、利用者の安全確保と利便性向上に努めてまいります。

次にその下、ピンクの枠でございます。5番「児童期・思春期の子どもと保護者の支援」です。こちらの事業では、不登校など、児童期や思春期の子どもと保護者が抱える課題について、解決に向けてのきっかけとなるよう、親子が気軽に参加できる講演会や相談会を、社会福祉協議会、教育支援センターなどの関係機関と連携して開催してまいります。

次に6番「土砂災害地域防災行政無線整備」です。こちらの事業では、土砂災害が想定される地域において、避難情報を迅速に伝達し市民が確実に避難できるように、緊急情報を伝達するための手段として無線を整備するものです。これまでに計6基が整備済みですけれども、令和5年度には田家、秋葉、草水、小口方面に合計で3基を設置してまいります。

7番「子どもの遊び場づくり」は、本町1丁目にある昭和公園の再整備を図っていくものです。

8番から12番は、令和4年度の防災・福祉・健康づくり関係の区づくり事業です。

次に進みまして、右上のベージュの枠をご覧ください。13番「アキハ『鉄道物語』」

です。こちらの事業では、引き続き新津駅東口の観光案内所を運営し、区民や商店街などと連携を図りながら鉄道に関連した取り組みを実施し、まちなかの活性化と交流人口の拡大につなげてまいります。また、今年は、特に鉄道事業者と共催で「マッチングトレイン」の運行を企画、実施してまいります。

14番と15番は、令和4年度から継続の区づくり事業です。

次に、中段のオレンジ色の枠で囲まれている部分です。16番「アキハスムプロジェクト Vol. 3」ですが、新年度で変わる点では、民間のコワーキングスペースに移住コンシェルジュを配置しまして移住相談窓口を開設し、移住・定住のための仕組みづくりを地域活動団体と協働して取り組んでまいります。

17番から19番は、鉢花、お米、もち麦などの消費拡大に向け、引き続き継続していく事業です。

次に、右下の緑色の枠で囲まれている区自治協議会提案事業の新規事業です。20番に「地域コミュニティ協議会の未来ビジョン策定支援」がございますが、こちらにつきましては、各コミュニティ協議会が将来を見据えた持続可能な地域運営を行えるよう、今後皆様と連携して推進してまいりたいと考えております。現在、その進め方について検討しているところでございますが、今後、区自治協議会へご提案さしあげてまいりたいと思います。内容としては、複数回の勉強会やワークショップの開催を見込んでいるところです。

残る21番から25番については、引き続きの継続事業となっております。

以上で、資料3-1の説明を終了します。

続いて資料3-2をご覧ください。表紙をめくっていただきますと、予算の総括表というものが出てまいります。上の表は、1番「歳入」でございますが、令和5年度の当初予算案の歳入予算のうち秋葉区所管分の合計は、表の左から2列目の一番下にございます。4億4,300万円余で、対前年度比で1億4,000万円余りの増となっております。増額の要因としましては、廃止石油坑井の封鎖事業、こちらは国と県からの補助金を得て実施するものですから、そちらの歳入が増えております。

下の表ですけれども、2番「歳出」でございます。約29億円の予算額となっておりますが、対前年度比では1億7,000万円余りの増となっております。増額の主な要因としましては、「廃止石油坑井封鎖事業」が9,800万円予定されておりますし、遊歩道へのトイレ新設、あるいは案内サインの整備といった施設整備にかかる事業費が2,450万円ほど増えることが原因となっております。

続きまして、2ページ以降の事業説明書につきましては、先ほどご説明しましたので

割愛させていただきまして、もう1つの資料、資料3-3をご覧ください。一般会計予算のうち、区役所ではなくて本庁の秋葉区関連事業です。

1 ページをご覧ください。道路計画課では、道路関係事業費を記載のとおり計上しておりますし、下の方、歴史文化課の関係では、新津鉄道資料館の維持管理関係などの予算を記載の通り計上しております。

2 ページからは、下水道事業会計の秋葉区関連事業となります。奥平室長から説明いたします。

(秋葉下水道分室長)

引き続きまして、下水道事業会計におけます秋葉区の事業についてご説明いたします。

2 ページをご覧ください。令和5年度につきましては、公共下水道の整備といたしまして4億5,583万円となっております。事業の内容についてですが、下水道施設の改築、浸水対策の推進、下水道施設の耐震化・耐水化、下水道処理区域の拡大、市浄化槽整備事業などとなっております。

はじめに、下水道施設の改築についてです。こちらは、ストックマネジメントに基づきまして、新津中部排水区ほかで雨水管渠などの改築工事を約260メートル実施しますほか、老朽化したマンホール蓋の取り替え、マンホールポンプの改築、新町ポンプ場及び真木野ポンプ場におけます雨水ポンプ関連施設の改築を行っていくものです。

次に、浸水対策の推進についてです。これは建設課の担当となりますが、浸水対策排水施設整備といたしまして、道路側溝の整備を約390メートル及び背割排水路の整備を約550メートル行っていきます。

次に、下水道施設の耐震化・耐水化です。これは、重要な管渠及び処理場施設、ポンプ場施設について、地震対策、津波対策、洪水対策を図っていくものです。秋葉区内におきましては、金津地区、荻川地区、小須戸地区などの避難所からの排水を受ける下水道管渠の耐震化を実施していきます。

続きまして3ページをご覧ください。下水道処理区域の拡大といたしまして、新津東町、小須戸地内で汚水管渠の整備を180メートル行いますほか、下水道処理区域内での公共汚水柵新設を行います。なお、秋葉区の下水道普及率についてですが、令和3年度末で95.8パーセントとなっております。

最後に、市浄化槽整備事業です。この事業は、指定区域におきまして市が合併浄化槽を設置するとともに維持管理を行うもので、下水道の整備に代えまして効率的な生活排水処理を推進していくものです。予算については、設置申請に基づきまして随時再配当されます。

下水道からは、以上になります。

(古俣副区長)

続きまして、4ページ、5ページとなります。こちらは教育委員会の関連ですので、牧野所長から説明をお願いします。

(教育支援センター所長)

では、よろしく願いいたします。

秋葉区関連事業としてありますのは、大規模改造事業と、それから特別教室空調設置・既存空調更新事業の2か所です。具体的に対象となる学校をお伝えします。

令和4年9月の補正で、すでに新津第二小学校、新津第三小学校が大規模改造となっているのですが、引き続き新津第二小学校、新津第三小学校が対象となっております。加えて、新津第五中学校が大規模改造実施設計ということで計画に入るということで、対象となっております。大規模改造事業については、以上です。

特別教室空調設置・既存空調更新事業についてです。今、学校は、子どもたちが普段いる教室のエアコン設置は終わっているのですが、特別教室はまだされていません。それが随時工事が進んでいくのですが、令和5年度特別教室の空調設置の対象になっているのは、結小学校、新津第一中学校、新津第二中学校、新津第三幼稚園、以上となっております。既存空調更新工事としては、小合小学校と金津中学校が対象となっております。教室にエアコンがつく前にすでにエアコンが設置されている部屋が中学校、小学校でいくつかあるのですが、例えば教務室とか校長室とか、図書室、パソコン室といった部屋のエアコンが老朽化しているということで、そちらを更新するということになっております。新津第三幼稚園につきましては、遊戯室のエアコンを替えると計画されています。

改造については以上です。

(古俣副区長)

以上が、令和5年度当初予算案の秋葉区関連事業となります。説明は以上となります。よろしく願いいたします。

(金子会長)

ご説明ありがとうございました。では、ただいまの件につきまして、ご意見、ご質問がありましたら、挙手のうえご発言をお願いします。

(木村委員)

小須戸コミュニティ協議会の木村です。

先ほど市長のところでは時間がなかったので、こちらで質問させていただきたいと思

います。資料3-1のところでは、資料3-1の囲みの2番の⑩「げんきに育つ親も子ども」という中で、妊娠期からというのが見えるのです。私は、あまりよく分からなかったのですが、地域に子どもを産みたくてもお医者さんがいない、あるいは昔で言う産婆さん、助産師がいない、そういう医療機関が秋葉区でも不足しているのではないかという感じを受けています。具体的なことは分かりません。子育てをするまず第一歩のところの医療の問題について足りているのかどうか、足りていないのであればどのような方策をおとりなのか、その辺を教えてくださいたいと思います。

(金子会長)

いかがでしょうか。何か情報はございますか。

(健康福祉課長)

ありがとうございます。医療の関係で、妊娠期であれば産婦人科、子育て期であれば小児科ということになると思います。秋葉区には、以前は産婦人科がございましたが、今現在、秋葉区の中に産婦人科はございません。出産される方は、主に江南区、江南区にはクリニックと病院がございます。あとは中央区、お近くのところを選んで通っていらっしゃるという方が多くなっております。小児科は、地域的にも何か所かございますので、秋葉区内の小児科にかかっている、そこがかかりつけという方が多いというのが今のところ分かっている実態になっています。

産婦人科につきましては、区長も少しお話しされておりますけれども、具体的な時期まではまだ分かりませんが、秋葉区の中にも産婦人科クリニックを開業されるというお話も聞いておりますので、その辺は情報がはっきりしましたら皆様にお伝えしたいと思います。

(金子会長)

ありがとうございます。ほかにいかがでしょうか。

(渡邊委員)

渡邊です。

番号で言いますと7番と16番なのですが、コワーキングスペースで働く世代の方々が、子育て中の方々も含めることを想定されるのであれば、この7番の子育ての検討の中に、コワーキングスペースにおける子どもの居場所というところも少し入れていただけるとありがたいと思っております。昨日、福島県の深川市に勝手に視察に行ったのですが、1階が市民活動支援センター、2階が子育て支援スペース、3階が文化交流、4階が円谷プロのミュージアムとなっていて、このように1つの拠点に集まっていると行きやすいかなと思います。

(金子会長)

というご意見ということで。

(古俣副区長)

参考となるご意見、情報、ありがとうございます。活かしていければと思いますので、よろしくをお願いします。

(金子会長)

ほかにいかがでしょうか。

(伊藤(直)委員)

公募委員の伊藤と申します。

2番「新津川遊歩道等利用促進」ということで、新津川・能代川の遊歩道にトイレを設置とありますけれども、具体的にはまだ決まっていないですよね。私は滝谷草水地区で、数年前から要望を、コミュニティ協議会等を通じてお願いしているところなのですが、具体的にどうなっていますでしょうか。

それからもう1点、6番「土砂災害地域防災行政無線整備」は、田家、草水、小口地区に3基設けるということで、ありがとうございます。山の斜面は、秋葉地区と滝谷地区等で同様にまだあるのです。これについての設置の予定、計画はありますか。

以上の2点、お願いします。

(金子会長)

では、建設課でしょうか、お願いします。

(建設課長)

建設課長の今井でございます。ご質問ありがとうございます。

「新津川遊歩道等利用促進」ということで、今回、来年度にトイレを合計2基新設するという予算提案をさせていただいております。1つは能代川で、北上辺りを想定して設置を進めていきたいと思っております。もう1か所の新津川につきましても、現在、図書館の裏にトイレがございますが、それよりも上流側の方で新設していただきたいという地域からの強いお願いをいただいている中で今回予算提案をさせていただいて、予算が可決されれば、地域の皆様と設置場所を具体的にご相談させていただきながら、来年度、設置していきたいと思っております。

(伊藤(直)委員)

分かりました。よろしくをお願いします。

(古俣副区長)

防災行政無線の関連でございますけれども、先ほど説明がありましたように、秋葉、

田家、それから滝谷もそうですけれども、草水、小口、これらのエリアをなるべくカバーできるように3基増設を予定しておりますので、よろしくお願いします。

(金子会長)

よろしいですか。

(伊藤(直)委員)

ありがとうございました。

(金子会長)

ほかにいかがでしょうか。

(保科委員)

山の手コミュニティ協議会の保科と申します。

5番「児童期・思春期の子どもと保護者の支援」というところで、不登校の子どもに対する親の講演会、また不登校など悩みを抱えている保護者の相談会とあります。要するに、これは不登校児童に対してどういうアプローチをとるのでしょうか。例えば、フリースクールみたいなものを1か所新設すると、お金がかかります。地元の山の手の方にフリースクールがあったのですけれども、親の負担があまりにも大きく、負担しきれないということで継続しないのです。本当は市長にお聞きすればよかったのですけれども、補助について何か考えておられるのかどうか、お伺いしたいと思います。

(健康福祉課長)

ご質問ありがとうございます。今ほどのフリースクール等への補助というところは、すみません、来年度予算の中には入っていないです。今現在健康福祉課で来年度実施を考えておりますのは、保護者の方も非常に悩んでいらっしゃるというご相談を受けますので、お1人、あるいは家族だけで悩まずに、ぜひいろいろなところとつながっていただきたいところから、不登校などの子どもの課題に関する講演会というもの、まずは保護者の方にこういうところにおいでいただき、相談会を行い、また学習面でも進路などで悩んでいらっしゃるということがございましたので、これまでこのようなことへの取り組みに経験のある団体の方ですとかと協力しながら、少しいろいろつながるところを増やしていけるような取り組みをまずは考えております。

(保科委員)

ありがとうございました。今後ともご支援をよろしくお願いします。

(坂口委員)

阿賀浦コミュニティ協議会の坂口です。よろしくお願いいたします。

13番の「アキハ『鉄道物語』」で、ここに「マッチングトレイン」というものがあり

ます。これは新しく計画されたものだと思うのですけれども、この辺、私が少し考えると、例えば制限とか、そういうものがあるのかなと。と言うのは、地元の方と区外の方とのマッチングとか、そういうものがあると定着率も上がるのかなと思うのですけれども、何か具体的なそういう施策みたいなものは考えておられるのかどうか、教えてもらえればありがたいと思います。

(産業振興課長)

ご質問ありがとうございます。秋葉区産業振興課、小林でございます。

この「マッチングトレイン」の内容なのですけれども、農業、それから商業の後継者不足、相手がいないということで事業継承がという課題がありましたので、そういうところを秋葉区にございます鉄道を活用して、課題解決、また移住・定住人口の増加等を図っていききたいということで考えたものです。

まだ計画段階で想定中のものなのですけれども、今後、鉄道事業者と協議しながら進めていきたいと思っておりますが、磐越西線の観光車両を使って、今のところ 20 代から 40 代の独身男女計 30 名を予定として、電車に乗っていただきながら、磐越西線ですので、新津から西会津まで行ってまた戻って来ると、その間において婚活的な出会いの場をつくると、また周辺の観光も楽しんでいただこうというものを計画しているところでございます。

(坂口委員)

ありがとうございます。こういうイベントというのは、まだ区でもしていなかったと思うのですけれども、ぜひ多くのカップルができるように期待して、よろしくお願ひしたいと思います。よろしくお願ひします。

(金子会長)

ありがとうございます。ほかにいかがでしょうか。

(田中委員)

満日コミュニティ協議会の田中です。

私が聞きたいのは、18 番「アキハウん米推進事業」のところでございます。秋葉区の米作りです。おかずレシピがということが書いてありますけれども、米作りというところが、最近どこで何を伝えているのか少し分からなくなってきました。と言うのは、以前、はさぎを利用して田植えから稲刈りまでやっておりました。子どもから家族皆が集まって、米はこうやってできますよと実感してもらい、そして自分たちで、はさぎに干した米を大変美味しいねと食べました。そういうことがこの秋葉区の特徴ではないかと、私はそう思うのですけれども、米作りはどのようにしてというところが、どうも見えな

くなっているのですね。おかずとレシピしか記載ないのですが、これはどこでもあります。その辺のところを少しお聞きしたいのですけれども。

(産業振興課長)

ありがとうございます。「アキハウん米推進事業」、その前に満願寺のはさぎなどを使って米作り、区民参加ということで行っていたのですけれども、確か3年前くらいに、農協といろいろ協議した結果、マンパワーが足りないということで中止となった経緯があります。今回、この「アキハウん米推進事業」については、令和4年度からの新規事業ということで行われたものでございまして、今、米の消費が衰退している。それは全国的なわけですが、秋葉区においてもそのような現象が続いているという中で、秋葉区の米作り、特にいわゆる5割減減、農協が率先してやっているところなのですが、化学肥料、化学農薬等を抑えて、慣行栽培より抑えて作るという米を作っている。他の区に比べても非常に率が高いと、安心・安全なお米を作るというところをございまして、そういうものの周知並びに消費拡大を進めるためのレシピ集を作って、少しでも消費が減少していくのを食い止めようという思いでやっている事業でございまして、今年はレシピ集を作り、来年度は、予定なのですけれども、レシピの周知並びに秋ごろに新米とそのレシピを実際に味わってもらう機会を設けて、米の周知を図っていきたいというものを事業内容としているところでございます。

(金子会長)

田中委員、いかがですか。

(田中委員)

すみません。おっしゃることは大体理解できるのですけれども、何か私の質問がよく分かっていないかなど。と言うのは、先ほども出ましたけれども、今作っている米は、特別な米であります。つまり、化学肥料を使わないで、いわゆる出てくる人糞とか、それから家畜の糞、そういうものを利用して作っています。だから特徴はありますよねという話もあったかと思うのです。そうしますと、それをどこでどうやって見つけるのか。そういうことも全然分からない。入っていますよ、入っていませんよ、誰もできた米を見ても分かりませんよね。ですので、やはりこれは、田植えから始まって稲刈り、はさぎに掛けてできましたね。そのはさぎに掛けた米は、皆さん食べてください。どうでした。これはすごく分かるのですけれども、レシピとかどうだこうだと宣伝しても、秋葉の米がどうだこうだと、それにはうまくつながらないですね。せっかくのこの予算があるのですから。あるいはJAとの関係もおっしゃっていましたので、恐らく農協が組織改革されたので、その辺のところももしかするとあるのか分かりませんが、人手がかか

るからだめだという話も先ほどおっしゃっていましたが、これは人手の話ではないですよ。あまりやる気がないねと。すみません。そのように感じました。

(金子会長)

今、ご意見ということで聞いておいていただければと思います。施策の方向性がどうなのかという、割と根本的な問いかけだったかと思うのですけれども、これが区役所としてやるべきことなのかどうなのかというところも含めてでしょうか。来年に向けて、来年、再来年度でしょうか、そこに向けて、区長から何かご発言はありますか。

(長崎区長)

まず、はさぎについては田中さんのおっしゃるとおりで、JAが合体して、さつき農協だったときには、はさぎ並木を守ろうということで、こちらも一緒になって予算も人も出して、もっと言えば収穫祭には市長にも来てもらってやっておりました。それが、コロナで一旦止まって、そしてまたJAも合併してということで、人も予算も出せなくなって、昨年、はさぎが実行できなくなったという経緯があるので、もちろん働きかけはしていきますけれども、なかなかハードルが高くなったなというのは正直なところです。

そして、この事業のもともとの発案は、食生活改善推進委員が、もともと農業をやられている女性の方々が昔の食事を残していきたいという中から出てきた話でしたので、とにかく田中さんのおっしゃるように、この地の食の歴史や文化というものを継承するところをまず続けようということからこの事業が起きていますので、その先にはさぎができればいいかなと思っていますので、少し長い目で見ていただければと思っています。よろしくお願いします。

(田中委員)

よろしくお願いします。

(金子会長)

ありがとうございました。

(五十嵐委員)

五十嵐です。私は、13番「アキハ『鉄道物語』」のところで、中央区から来たときに、鉄道の使い終わった車両がたくさん展示してあったのです。それが本当に秋葉区の貴重な財産だと思っていました。そこで、使わなくなった車両をもう少し活用して鉄道のまちとしてほかから来た人に見てもらい、乗ってもらい、動かしてもらい、それからまちの中にいろいろな小さい道具というのでしょうか、鉄道の機械などがありますけれども、もう少しその電車を活用できないのだろうかと思っていました。

この「マッチングトレイン」というのは、トレインを利用するという意味のことなの
でしょうか。この辺が分からない言葉だったのでお聞きしたかったのと、先ほどの方が
おっしゃったことと同じなのですけれども、18番、19番「アキハウん米推進事業」と
いうのは、これは私も田植えとか、お米を育てて使うという、そういう変化を子どもた
ちに体験してもらったほうがいいのではないかと考えていました。今年度はレシピ等
を作って、来年度はレシピを再現させていく、調理するというのであれば、それはそれで
連動していいかと思えますけれども、レシピや調理より米の料理、餅の料理、それを秋
葉区の米でどのように作るのかという経過を体験させていったらいいと考えていま
した。やはり米ともち麦、セットで一緒に推進していくというのがいいと思えます。

それから3番目ですが、生活交通の検討ということで22番に上げられていてとても
嬉しいのですけれども、やはり区バスなどが行っていない新関地区とか、そういう私
たちも行きにくいところの交通をどのようにするのかということ、具体的に皆で一緒
考えていけたらと考えています。よろしくお願いします。

(金子会長)

ありがとうございます。「マッチングトレイン」は、先ほどけっこう詳しくご説明
いただいていたのですけれども、婚活イベントですか。

(産業振興課長)

婚活イベントです。

(金子会長)

お見合い列車ですね。そうですね。それでよろしいですか。

うん米ともち麦は、産業振興課から何かコメントはございますか。

(産業振興課長)

先ほどもレシピばかりではないよというお話がございましたので、生産現場といいま
すか、そういう作り手の思い、それから生産の苦労等を知っていただくような何か取組
というか、そのようなものを検討していきたいと思えます。

(金子会長)

ありがとうございます。生活交通は大きな質問でしたけれども、どなたかにお答え
いただければと思います。いかがでしょうか。

(古俣副区長)

生活交通の空白域の解消というのは、本当にこれからの人口減少などを踏まえて、大
変重要な問題となっておりますし、これからもなっていくと思えます。先ほどの市長の
質疑のところでもございましたけれども、現在、北区ではバスタクの取り組みなどが行

われておりますので、そういうところの実証結果なども考慮に入れながら、皆さんとともにこの解消に向けて検討を進め、実現に結び付けたいと考えておりますので、どうかよろしくお願いいたします。

(金子会長)

ありがとうございました。

(長谷川委員)

民生委員・児童委員連絡協議会の長谷川です。

18 番に戻るのですけれども、私がとても気になるのは、「ご飯が進むおかずレシピ」と言われたときに、やはり新潟市が減塩を進めてくださっているのですけれども、「ご飯が進む」というのは味が濃いかと思うのです。ですから、そのレシピを作られるときに、ぜひ減塩もお考えくださって、減塩且つ美味しい、出汁をうまく使うとか、そういうレシピ集を出していただいて、そこに塩分濃度も書いてくださるとそれほど悪くはないかなと私は思います。健康福祉課とぜひ連携してやっていただきたいと。ご提案です。よろしくお願いいたします。

(産業振興課長)

こちらのレシピ開発につきましては、食生活改善推進員の方とかにもご協力いただきましてやっているとございますので、塩分濃度等については、もう一度お話しさせていただきますと思います。

(長谷川委員)

すみません。食生活改善推進員にお任せするのではなくて、こちらからきちんとそういうことを伝えていただかないと。これは悪口ではないのですけれども、昨年、ミニトマトのコンポートを教えてくださいましたのですけれども、お砂糖の量が非常に多かったのです。私は、これはそのまま家族に美味しいよとは言えないと思ったのでお砂糖を減らしたのですけれども、カロリーとか、今はやはり高血圧も心配だし、肥満も心配だし、そういう健康にもう少し配慮していただけたら、ただ食生活改善推進員にお願いしますと言わないで、うちとしてはこうです、区としてはこうですということをきちんと伝えてください。よろしくお願いいたします。

(金子会長)

ありがとうございます。秋葉区がやることの中の健康へのプライオリティをとにかく上げてほしいというご意見だったかと思います。プライオリティ、秋葉区は、健康とか環境とか、そういうものに徹底的にこだわった施策を展開してほしいということで、ありがとうございます。

では、ほかにいかがですか。

(伊藤(直)委員)

4番「廃止石油坑井封鎖」、9,800万円、ものすごい予算ですけども、小口地区のどの辺の場所ですか。

(古俣副区長)

場所は、新津のクリーンセンターという焼却場がありますけれども、その裏手になります。

(伊藤(直)委員)

旧帝国石油の施設がたくさんあったところですか。鉱夫の像とかがある、その上手ですか。

(古俣副区長)

炭夫の像までは行かないです。もと小口のクリーンセンターの真裏になります。

(伊藤(直)委員)

場所的には大体分かりました。

(金子会長)

場所の確認ということでした。ほかにいかがでしょうか。

(渡邊委員)

渡邊です。

先ほどの田中さんの話を伺いながら思っていたのですが、18番「アキハウん米推進事業」は、産業振興の観点ですが、おっしゃっていたのは教育の分野に近いかなと思うので、例えば14番や15番の部分に関連するかなと思うのです。14番は予算が少ないので、例えばですけども、15番に稲作と石油との闘いを入れていくという方法も一つとしてあるかなと思います。なぜかと言うと、先ほど市長がおっしゃっておられた農家の次世代育成という観点では、全然農家ではなかったお子さんが稲作に触れる経験がないと、楽しいと思わないと思うのです。小学校自体も総合学習をやろうという校長先生もいらっしゃいますが、先生方のご負担が大きいのでやれない状況もあるので、これはぜひ何かしらかかわれる場面があるといいかなと思いました。

(金子会長)

では、区長から。

(長崎区長)

ご質問、ありがとうございます。先ほど手を挙げて言いかけたんですけども、おっしゃるとおりで、18番に関連して、今、手元にないのですが、今総合学習で米作りを数

校がやっています。田中さんの学区である阿賀小学校も、4年生が学校の前のところをお借りして田植えから収穫までやられて、その後食べるというところまでやっておりますし、もち麦に関しては、植えて刈るということはしていませんけれども、学習ということで第一小学校と矢代田小学校がやっていました。総合学習であったり、あるいは中学校の探求であったりということで、地元を知るところから田植えの体験、ないしはいわゆる生業ということを学ぶようにはなっていると思っていますので、先ほどの阿賀小学校で言えば、地元の方が田を提供して、準備をして、お手伝いをするところを地元で盛り上げてやっていただいている部分がありますので、そのように地区単位になるかもしれませんが、地元の理解と協力があるとしやすいのかなと思っています。ちなみに新関地区だと、お茶の体験を3年生、4年生が総合学習でされておりますけれども、そういう意味ではコミュニティ・スクール、ないしは総合学習、探求学習を進めているその延長線上でこういう取り組みが地域単位でできるとありがたいと思っていますので、引き続きご理解とご協力をいただければと思っています。お願いいたします。

(金子会長)

ありがとうございます。ほかにございますか。

(五十嵐委員)

何度もすみません。17番「花まる鉢花推進事業」についてですが、この新日本海フェリーの中でのアザレア展示とか、県外バイヤーとの鉢花商談会の支援のほかに、秋葉区在住の人でもアザレアを十分に購入して育てているという人ばかりではないと思うのです。現に私などはアザレアを買いたいと思っても、どこで買ったらいいのだろうかという疑問もあったりするので、ここに書いてあるほかに、区民に対してのアザレア推進事業の計画というものはあるのでしょうか。教えてください。

(産業振興課長)

ご質問ありがとうございます。このアザレアの展示等については、新日本海フェリー、それから幼稚園の入園・卒園式の展示等をやって周知しているところでございますけれども、そのほかに全国のバイヤーから花木をご購入いただくために商談会というものを地元で開催しているのですが、そちらで予算を使うというものでございまして、ほかに展示とか購入いただくには花夢里にいつ、それからフラワーランド等でアザレア展、県立植物園でも行っております。それから、最近では、ふるさと村でフラワーウェーブといった催しものに当区からも展示で出ておりますので、そのようなことで広くPRを行っております。

(金子会長)

よろしいですか。

(木村委員)

関連です。今の「花まる」のところでは、アザレアに特化したような言われ方をされたわけですがけれども、この資料3-2を見ると、アザレアに特化していない書き方があります。私が気になるのは、ボケが小須戸の名産なので、対象になるのでしょうか、ならないのでしょうか。お尋ねします。

(産業振興課長)

すみません。アザレアを含め、鉢花と言えよよかったのですがけれども、ボケも含めて、特産である鉢花全体のことでございます。

(花水委員)

すみません。18番、お米に関してなのですが、私が勤めている第三小学校も学校ではやっているのですが、地域の方のお手伝いなしではとてもできない状態です。ただ、地域の方も同じく農家をやっているのでも時期的に忙しいのです。その時間を割いてもらってお手伝いという形をしてもらわないと進められないのです。5年生が行っているのですが、学校の先生方も毎年担任が替わりますので、そういうことを先生方もまったく知らないということもありますので、本当に地域の力が大変重要なのですが、お手伝いしてくださる方がいらっしゃいません。今年度お手伝いをしておられた方がご病気で、第三小学校も来年はできないと言われました。農協の手配で代替りの方をみつけていただいたのですが、そういう人材を確保するのが難しいです。5年生が田植えを観察するのですが、これで果たしてきちんとした学習ができているのかなと、私もお手伝いしながらすごく思うのです。第二小学校ではお米ではなく花卉農家で花卉の栽培とか、いろいろなことをやっているのですが、ただやはりお米というのは新潟県では大事なので、もっとお手伝いしていただける方が区の中でいらっしゃれば、より子どもたちが、この学習ができていいのではないかと考えています。農家の親御さんがいても、やはりお手伝いが難しいということで、本当にボランティアの力がなくてはできないことなので、区で何とかならないのかなと考えております。よろしくをお願いします。

(金子会長)

これはどなたにお答えいただければいいのでしょうか。区長ですか。

(長崎区長)

厳しい状況を今拝聴して、今、検討する必要があるのかなと考えていますし、一方で、

最近は見なくなりましたけれども、有料になりますけれども、農業法人がそういう流れをパッケージで募集して、1年を通じて農業体験だけではなくて農の暮らしというものをやっている方もいらっしゃいますので、また機会があったら話しかけてみたいと思いますけれども、例えばそういう方に、委託になるのか何になるのか、協働する形でそういう機会をつくれるのであれば、そういう取り組み方も1つの方法かなと思っていますので、学校でのやり方も含めてですけれども、さまざまに検討したいと思います。ありがとうございました。

(金子会長)

ありがとうございます。そのほか、ございますか。さすがによろしいですか。丸々1時間、この議題で1時間皆さんに議論いただきましたが、そろそろよろしいでしょうか。ありがとうございました。活発なご議論、大変お疲れさまでした。

では、以上で次第の(3)「令和5年度当初予算事業について」を終わらせていただきます。

(4) 第3回秋葉区自治協議会委員推薦会議について(報告)

(金子会長)

では、次第の(4)にいかせていただきます。秋葉区自治協議会委員推薦会議からの報告ということで、田中座長からお願いします。

(田中委員)

自治協議会の委員推薦会議の田中です。

第9期の委員改選に当たりまして、自治協議会委員の推薦案、公募委員の選考について、2月20日に推薦会議を行いました。そのご報告をいたします。

資料4をご覧ください。1番から11番までの1号委員ですが、各地域のコミュニティ協議会から選出していただきました。それから、12番から20番までの2号委員は、13番の小須戸商工会については辞退ということになりましたが、それ以外の八つの各公共団体から選出していただきました。これにつきまして、1号委員、2号委員合わせて19名ですが、この方々を推薦いたします。

それから3号委員については、区長が認める者として10名の方を推薦いたします。有識者については、4名予定しておりましたけれども、1名が辞退となりました。その代わり、区分の中のその他ということで1名増えまして3名となりました。まず、有識者として21番から23番までの中島純さん、渡邊彩さん、藤村靖子さんの3名を推薦いたします。その下の24番から27番までは公募委員ですが、この度6名応募された中か

ら、作文と活動歴などから、また方向性が明確であって建設的な視点に立っているか、また活動する積極的な姿勢があるかというような観点から、厳正に選考いたしまして、次の4名の方、五十嵐幸子さん、田中美央さん、平田洋子さん、古川綾子さんを推薦いたします。有識者、公募委員以外のその他としまして、新潟かがやき農業協同組合の横山邦子さん、まちの茶の間だんだん嶋岡の大貫弘美さん、にいつまちづくり会議の斉藤洋一さんの3名を推薦いたします。

29名のうち新任が16名、再任が13名、女性が13名ということで、女性の割合は44.8パーセントとなります。資料に記載の29名の方を、第9期秋葉区自治協議会委員として推薦いたします。本会議でお諮りいただきたいと思っております。

それから、続きまして報告があります。11月27日の本会議で、委員の再任について質問がありました。1号委員のコミュニティ協議会選出委員が、再任して通算して6年を経た後、3号委員として公募委員にまた応募できるかという質問です。これにつきましては、1号と3号、いわゆる号が異なっているということで、これはできるという、このような回答を事務局が市の担当課に確認いたしました。それをご報告いたします。

以上、先日開催いたしました第3回秋葉区自治協議会委員推薦会議についてご報告いたします。よろしく願いいたします。

(金子会長)

田中座長、ありがとうございました。では、ただいまの件につきまして、まずご意見、ご質問がございましたらお願いいたします。とくにございませんでしょうか。

それでは、採決を取りたいと思っております。ただいま田中座長からご提案いただきました次期秋葉区自治協議会の委員推薦会議からのこの資料のとおりのご提案、承認いただける方は挙手をお願いいたします。

賛成多数ということで承認させていただきたいと思っております。ありがとうございました。

では、次第(4)「秋葉区自治協議会委員推薦会議について」を終わらせていただきます。

(5) 次期区ビジョンまちづくり計画について

(金子会長)

続きまして、次第(5)「次期区ビジョンまちづくり計画について」、古侯副区長より説明をお願いします。

(古侯副区長)

それでは、皆様のお手元には、資料5「秋葉区区ビジョンまちづくり計画」をご用意ください。

この度の秋葉区区ビジョンまちづくり計画案の策定に当たりましては、区内の新津まちづくり会議、未来会議からの提言、それから自治協議会の皆様からの幸福度調査を踏まえたご意見をいただくなどして、内容の検討を進めてまいりました。最近の動きで申し上げますと、先月までにパブリックコメントを実施いたしましてご意見をちょうだいした後、今、お手元のものが最新版となっております。

修正があったのは、主な修正箇所ですけれども、35 ページをお開きください。35 ページの下の方にまちづくりの方針がございます。いただいたご意見といたしましては、昨今の農業資材の値上がりがあって、農業経営力の向上について記述がほしいというご意見でした。それを受けまして、まちづくりの方針の中の左側 2 番目のひし形の部分に、「農産物のブランド化、環境保全型農業の推進や機械化体系が確立した高収益作物の導入支援」という記述を追加しております。

今後は、こちらのまちづくり計画について体裁を整えまして、製本に向けた準備を進めてまいります。なお、製本が出来上がりましたら、先ほどの議事にもございましたが、新旧の委員の皆様にお届けいたしますので、どうぞよろしく願いいたします。

以上で、説明を終わらせていただきます。

(金子会長)

ありがとうございました。それでは、ご意見、ご質問等をいただきたいと思いますのですが、本当に長い時間をかけて皆さんからたくさんご意見をちょうだいして、順を辿ってこういう形にまとまったということがございます。できれば個別の施策の内容うんぬんということは、ここでは控えていただいたほうがいいかなと思います。このように仕上がったということに関して何かご意見等がございましたらお受けしたいと思いますが、いかがでしょうか。

(渡邊委員)

渡邊です。

個別はということなのですが、21 ページの太陽光発電なのですが、一つだけ、海外製だと特になのですが、カドミウムが流出するということもありますので、あまり写真は大きく出さないほうが得策かなと思います。

(金子会長)

体裁についての疑問とか、そういうものはまったく趣旨に沿っていると思いますので。

(渡邊委員)

気になる方は、カドミウムが流れてしまうということを意識されている方もいらっしゃるのでは、少し小さめにしたほうがいいのではないかなと思います。

(金子会長)

かなり専門的な知見からのご意見でした。

(古俣副区長)

ありがとうございます。カドミウムの問題などにつきまして、環境部にも確認をとりながら対応したいと思っておりますので、ありがとうございます。

(金子会長)

ほかに何かございますか。

そうですね。今の渡邊委員のように、ここは少しおかしいのではないかとか、ここは記載が変になっているとか、もしそういうことに気づいたら、いつまでにご連絡すると間に合いますでしょうか。

(古俣副区長)

担当の友坂主幹が、来週中と申しております。ご理解、ご協力のほどよろしくお願ひ申し上げます。

(金子会長)

かなりボリュームがあるものでもありますし、本日配られた資料ということで、改めてしっかり目を通していただいて、地域総務課の友坂さんが窓口ということでございますので、何かお気づきの点がありましたらご連絡いただきたいと思います。

それでは、以上で次第の(5)「次期区ビジョンまちづくり計画について」を終わらせていただきます。

(6) その他

(金子会長)

では、その他に入ってまいりたいと思います。各部会からの活動報告をいただきます。第1部会から順番に、第2部会、第3部会、広報部会、ひな・お宝巡り部会の順番でご報告いただいて、ひと回りしたうえで皆様からご意見、ご質問等をいただきたいと思いますので、よろしくお願ひします。

では、第1部会は、渡邊副部会長からお願ひします。

(渡邊委員)

横山委員からのご報告を代読させていただきます。

「きらめきサポートプロジェクト」についてですが、ドタミファソラシ堂の「アキハフジンロックフェスティバル」事前予約で満員になったとのこと。3月4日に開催されるとのことです。

新津中央コミュニティ協議会と「あきは害獣対策プロジェクト」については、小山さんからぜひ青木さんにお話しただければということです。

新津青年会議所は終わりましたということで、来月の本会議でそれぞれの代表の方がご報告するという事です。

(金子会長)

すみません。私、今あまりよく聞こえていなかったのですけれども、この後でどなたか補足の説明がありますか。

(小山委員)

進捗ですけれども、建設課と自治協議会とで4回の会議を実施しまして、作成、設置については検討しました。作成する地図の枚数は、幸清水周辺と正法寺周辺の2か所、上部に地図、下部に矢印案内をします。QRコードもつけるように準備をしておりますので、今、業者に発注中です。3月15日までには、2か所の設置が完了いたします。

(金子会長)

ありがとうございます。では、続きまして、第2部会の蓮沼部会長、お願いします。

(蓮沼委員)

第2部会の蓮沼です。

第2部会は、2月14日、先ほど中原市長のときにも話しましたが、北区で行っている「エリアバスタク」の勉強会に行きました。現在、満日関係で生活交通支援、買い物支援を3月から毎月第2、第4でやろうということなのですけれども、当初、住民の人たちに希望される方ということで11名が登録したのですが、その後3名増えたという情報もありまして、段々利用したいという人が増えてくると、この「エリアバスタク」は非常に大勢を救う手段としては有効だなと思ひまして、そちらを9期に引き継いでさらにやっただこうということで、そういう話をして勉強会に出席したということです。

(金子会長)

ありがとうございます。では、第3部会の花水部会長、お願いします。

(花水委員)

第3部会の花水です。

「Ak i h aおとな大学」の第3回目のもち麦クッキングが2月上旬に各申込者の方に届いて調理をしてもらっているはずなのですが、今回、バレンタインに間に合うようにハートのバナナを飾ったパンケーキ、炊飯器でできるパンケーキを作ったので、14日までには皆さんが作られているかと思うのですが、定員30名のところ、満員の30名と

ということで、3回目にしてやったなという感じがようやく見えてきたという感じです。これで終わらずに、次期もこのまま継続していただければと思っております。メニューにもよるのでしょうかけれども、やはり作りやすいのもそうですし、使ってみようかなというようなメニューがいいのかなと。私たちも手探り状態から始めたので、メニューにはほとんど口出しはしていなかったのですが、少しずつは口出ししましたけれども、今回もち麦がすべてのメニューに入っているということで、もち麦商品にも少しは役立ったのかなと思っております。

今は申し込みの方だけの動画配信ですが、2月の、今月末には皆さんも見られるような形になりますので、ぜひ見ていただいて、もち麦の購入を検討していただきたいと思っております。

(金子会長)

ありがとうございます。では、広報部会の加納部会長、お願いします。

(加納委員)

広報部の加納です。

広報部では、2月19日号、31号です。皆さん、ご覧になられましたよね。区役所だよりも合わせて出させていただきました。先ほどのきらめきサポートの報告という形になっていたかと思っております。

それからもう一つ、これは広報部とは関係なかったのですが、作っていただいたところに「ひな・お宝」の案内が、ほかの区のお雛様という形の中にきちんと秋葉区の「ひな・お宝めぐり」という形で載っていたのは、私的には、秋葉区もきちんとやっているのよという形で、すごく嬉しかったこと、皆さんもそのように感じられたのではないかなと思っております。

次号、3月19日号、32号になりますが、8期の自治協議会としましては最終号になるかと思っております。これについては、「ひな・お宝めぐり」を1面に取り上げまして、あとは各部会長の今期の感想、それから会長、副会長の締め言葉という形で締めさせていただく形になっておりますので、こちらのかわら版もお願いしたいと思っております。

FMにいつの出演につきましては、今回は会長と副会長にお願いしておりますので、皆さん、お聞き逃しのないようにお願いしたいと思っております。

(金子会長)

ありがとうございます。では、最後にひな・お宝めぐり部会の飯村部会長、お願いします。

(飯村委員)

ひな・お宝めぐりについてお話をさせていただこうと思っています。先ほど市長がいるときに宣伝、PRをしたかったのですが、かなり生活に密着した大きな題材を皆さん方が訴えられているところもありまして、少し時間の都合上言えなかったことがたくさんありますので、区長にぜひ委ねたいと思います。今の内容を市長ともぜひ検討していただければと思っています。

実は、今年はかなり盛大にやりました。このイベントホールにも非常にきれいなひなが飾ってありますが、去年 130 だったものが 140 以上の団体から参加していただいていると聞いておりますが、この向かい側の新潟薬科大学の東キャンパスも、通りに面したところに 1,200~1,300 のお雛様が飾ってありまして、今年、とても盛大にいい感じで進めており、一応、オフィシャル的にはと言いますか、3月5日までが開催日時に公にはなっているのですが、ただ地区ごとに長く延長して盛り上げていただいております、3月31日までというところもいくつかあります。新潟薬科大学の東キャンパスも3月31日までやらせていただきますので、ご覧になっていただければと思います。

それから、来年度に向けてと言えればよろしいでしょうか。まず、G7のことについて少し話題になっていたかと思いますが、G7に展示参加というか、そういうことを進めていただいたということで、非常に世界的、グローバルな「ひな・お宝めぐり」に変わります。そこで、どのように具体的に参加し、また秋葉区の方たちにどのようにご協力いただくのかということについては、ぜひ区長はじめ市長もそこにはかかわるかと思いますが、かなりいろいろと違った形の協力を仰がなければいけないというところもあるので、ぜひこの場を借りて、皆さん、大きくなりますよということをPRさせていただこうと思っています。

また、令和5年のいろいろな区の計画とか、そういうところに必ず「ひな・お宝」というものが、また予算のところにも「ひな・お宝」というのが出ていて、本当に秋葉区の伝統行事と言っても過言ではないことに、かなり大きな行事になってまいりましたので、今日の資料の中で「ひな・お宝」という文字があちらこちらに散らばっておりますから、そういうことも含めた9期の活動へと展開していきたいというところで、今、まだ真っ只中という感じではございますが、もう来年度に向けての気合と、また春に「ひな・お宝」の大きなイベントも実施されるということで、世界活動も含めて「ひな・お宝」はいろいろと成長してまいりますということをご報告させていただこうと思っています。区長もぜひよろしく願いいたします。

(金子会長)

ありがとうございました。秋葉の「ひな」が世界デビューなのですね。素晴らしいですね。

(飯村委員)

世界デビューすることになりましたので、よろしくをお願いします。

(古侯副区長)

飯村委員、ありがとうございます。今、市役所のG7の事務局が財務省と調整を進めておりまして、お雛様をどこに飾ろうとか、あるいは説明文を、ポスターみたいなイメージのようではけれども、掲示できるとか、そういう具体的な話もいただいておりますので、恐らくどこかに飾られると思いますので、今から説明文の内容をご検討いただいて、説明文も英訳などさまざまな外国語の翻訳をしなければいけませんので、どうかご協力をお願いいたします。ありがとうございます。

(金子会長)

ありがとうございます。本当に素晴らしいですね。

(長崎区長)

市長をお見送りするときに、今ほどの話は事務局が今詰めていますのでということで市長にお伝えしたら、びっくりして「えっ」となられていました。それから、すでに伺っている方もいるかと思っておりますけれども、先々週の日曜日、2月12日に、花角知事が小須戸の雛巡りを奥様とお孫様と1時間くらいされていたと伺いましたし、公式の場でも知事自らコメントされていたと聞いていますので、まさにかなり大きくなっているなという実感をもっています。

(金子会長)

ありがとうございます。G7サミット会期中は多分私どもは見られないと思いますので、会議が終わった後も少し飾っておいていただいて、我々が見られる時間を確保していただけるとありがたいのと、8期で解任される委員もぜひ情報を共有していただけるとありがたいのですが、よろしくをお願いします。

それでは、各部会からの報告について、ご意見、ご質問等がございましたらお願いします。いかがでしょうか。特にございませんでしょうか。よろしいですか。

では、とくにないようでしたら、これで次第の(6)各部会からの活動報告を終わらせていただきます。

ありがとうございました。これで議事はすべて終了ということになりますけれども、ほかに何か共有したいことなどがございましたら、この機会ですのでよろしくお願

ます。

(佐々木委員)

皆さん、冬まつりのご協力、ご参加、大変ありがとうございました。皆さんのダンスと盛り上げのおかげで大変大盛況になりまして、当日、本当にたくさんの皆さんにお越しいただいて、一緒に踊っていただけた方も数名いらっしゃるのですけれども、第3部会に限らずおいでいただきまして、本当にありがとうございました。3,500名の集客ということで、スタッフ、そしてダンサー、出演者を合わせますと4,000人以上ということになりまして、本当に秋葉区で堀出神社からの大渋滞、これは一体何なのかということで、後で苦情をいただきました。でも、本当にこれからそういう機会をたくさんの人が待っているということで、また来年は、実は体育館が大規模改修ということで使えないのですけれども、いろいろな皆さんと相談しながら、小規模であっても冬まつりを続けていきたいと思っていますので、どうかご尽力のほどよろしく願いいたします。

そして、3月4日に「アキハフジンロックフェス」が開催されまして、満員御礼ということですので締め切っているのですけれども、TAMiさんの熱い思いで60席くらい増席しようかなということで、TAMiさんのInstagramで応募を始めるということですので、もしお子さん、お孫さん、参加した方がいらっしゃいましたらぜひお申込みいただきたいと思いますが、先着となっておりますので、お急ぎいただけますようお願いいたします。ありがとうございました。

(金子会長)

ありがとうございました。ほかにいかがでしょうか。とくにございませんでしょうか。それでは、以上で、議事を終了したいと思います。

3 閉会

(金子会長)

では、閉会のあいさつを、第3部会の伊藤委員からお願いします。

(伊藤(直)委員)

第3部会のセカンド伊藤です。

今日も、皆さん、大変活発に討論いただきまして、ありがとうございます。これがこの秋葉区自治協議会のすごくいいところだなと思っています。皆さん、活発に、地域を思って発言していただいて、この熱が結局は秋葉区全体をよくしていく、住みやすいところにしていく、皆さんが集まって来られるようになってくれるだろうと期待して皆さんやっておられると思うし、これは皆さん全員の思いだと思います。そういう皆さんの

意識をもって、情熱をもってやっておられるということが非常によく伝わってきて、大変よかったですと思います。私も2期4年間やりまして、今年で終わりです。非常にいい経験になったと思います。

私は、普段は新潟県山岳協会の役員をやっております、新潟県は山がたくさんあって、北は朝日連峰から、なんと南は白馬の一角まで300キロもあるのですけれども、いわゆる100メートルという山もいくつかその中に含まれていまして、実はその登山道の整備を1年中やっているのです。ですから、それだけたくさんあるものですから、毎年全部回り切れない、半分ずつくらいしか回れないのですけれども、今でも登山道の整備をやっております、要するに山岳の自然の保護というか、自然の保護ですね。それから生態系の保全というようなことを意識してやっているのです。この生態系の保全、山岳の自然保護、ひいては自然保護、環境の保護ということとこの地域を守っていく、育てていく、いつまでも秋葉区を住みやすいところに守っていくというところは、何か共通項があるような気がしています。やればやるほどそのように感じます。放っておけば荒れてしまう。だから、ある程度規制を加えていかないと勝手に、例えばトレイルランニングというものが今盛んになってきていますけれども、昨年、私はそちらの、どちらかと言うと規制をするほうに働いてきましたが、放っておけば1日か2日で何百人、何千人というものが山の頂上で騒ぐということで、あっという間に山が、登山道が崩れてしまう。植生が破壊されるようなことになりまして、放っておけば放っておいたで藪になったりしていくということで、ある程度手を加えていかなければいけないということで、その兼ね合いというのが非常に難しいということでもあります。

この社会、地域も非常によく似たところがあって、放っておけばこの辺は、秋葉区は段々衰退していくというのは目に見えているし、「にいがた2キロ」に集中しているようでも、それをやられればやられるほど、実は私は非常に寂しい思いがするのです。そういうことがありますし、やらなければなおさら乱れていく、荒れていくということですから、その兼ね合いが大事だということ。地域を守っていくということ、それから山の自然を守っていくということ、非常に共通項があると感じています。

ですから、皆さんも、ぜひこれからも、留任される方も一生懸命頑張っていっていただきたいと思います。私も、できるところは、この地域のためにお手伝いできることがあればやっていきたいと思っています。どうも皆さん、ありがとうございました。今日も討論、ありがとうございました。

(金子会長)

伊藤委員、ありがとうございました。あと1回しかないのですね。多分、次回もまたごあいさつの時間があると思います。退任される方、一言言っていかないといけないと思います。

ということでございますが、第11回の自治協議会、これにて閉会させていただきたいと思います。進行を事務局にお返しします。